



発行：NPO 法人シャローム事務局

〒960-1241 福島県福島市松川町字東原 17-3
TEL / FAX 024-567-5322Web <http://www.nposhalom.net>
E-mail info@nposhalom.net

発行責任者：大竹静子

ひまわり、全国で咲き誇る！

ひまわりプロジェクト二〇一五 夏のひまわり交流報告

春に送られたひまわりの種が、全国各地で咲き誇っています。多くのボランティアの皆さんが参加しての種まきの様子、発芽から日に日に成長していく様子、そして、畑一面に大輪の花を咲かせたひまわりの様子、家族が力を合わせて咲かせたプランターのひまわり。さまざまな環境で育てられたひまわり、それは福島への思いを共有しながらその花を咲かせています。

このことのすばらしさを思い、感謝の気持ちを伝えようと、栽培に取り組んでいる現地を訪問し、現地の皆さんと直接の交流を図る「ひまわり交流大使」の派遣を昨年からはじめています。今年もひまわりの花が咲き誇るこの時期に集中して四件の交流事業が実施されました。

①七月三十一日～八月六日、岡山県の笠岡市から九州の博多、柳川市、熊本県の小国町を訪問した「子どもひまわり大使」、十一名の小学生から高校生で編成。②八月一日～二日、愛知県の東栄町を訪問したのは、シャロームでボランテ

ア活動を行っているメンバーで組織した「ひまわり大使」。③八月八日は、ひまわり油「みんなの手」の梱包作業などを行っている障がい者施設「ベリック憩」の皆さんが仙台市の「リルーツ」さんを訪問。④七月二十四日には宮城県女川町の「果樹園 CAFE ゆめハウス」をシャローム事務局で訪問しました。詳細については、次ページ以降に参加者からの報告を掲載しておりますので御覧ください。

現地を訪ね栽培に携わっている人々と親しく交流することで、福島の現状を伝えることができるだけでなく、その地域で抱える問題も知ることができます。そして、その問題の多くが、福島の抱える問題と重なることに驚かされます。

若者が少なく、ひまわり栽培に協力している人たちの多くが高齢者で、町全体に空き家が多く、人口減少が急激に進んでいる。地域再生のために必要な人口構成が限界点を



超えると人口減少は急激に進むといわれているが、その現実を目の当たりにした思いがします。

福島原発事故後、避難を余儀なくされた地域では、自給的な農業生産を失ったことで、この状況が一手に顕在化してしまっているのが現状です。

ひまわりは、大地に根を張り、夏の日差しを受けて大輪の花を咲かせています。ひまわりは、私たちに、人と自然の関わりを、そして、人と人との関わりを考えさせる機会を与え、しっかりと大地に根を張って生きていくことの大切さを教えようとしています。 (T・O)

戦争の記憶

例年になく猛暑日が続く。今年は戦後七十年ということもあり、総理の七十年談話をめぐり世の中も熱い。戦争をしたと思うている人がいるのだろうか。広島、長崎への原爆投下、悲惨な映像が流れ、被爆者の証言が、世界の首脳陣が訪れ献花が行われ続けている。戦争を繰り返してはならないと思っていると信じたい。

戦争では、一人の人間が被害者であり加害者となる。本人の意思を無視され徴兵されて戦地に送られる兵士、悪政の結果の被害者である兵士、戦地では殺戮を繰り返す兵士、憎悪を生み出す兵士、憎悪が憎悪を生み出す兵士、憎悪が破壊を生む地獄絵図。

人は人として知り合うことで、争つことがなくなる。相手を知らないことで不安は生まれる。悪い噂を聞くことでその不安は増幅する。

国の境を越えて人々が手を繋ぐことでそれはなくなっていく。相手を知らなくて不安はなくなり、悪い噂も消されていく。人と人との交流を深めることによる好循環を作り出すことから戦争を回避していく道は開けてくる。終戦記念日に思う、合掌。(T・O)